

2022年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2021年11月5日

上場会社名 塩水港精糖株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2112 URL <http://www.ensuiko.co.jp>  
 代表者(役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 久野 修慈  
 問合せ先責任者(役職名) 常務取締役 (氏名) 小田 俊一 (TEL) 03-3249-2381  
 四半期報告書提出予定日 2021年11月5日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第2四半期の連結業績(2021年4月1日~2021年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	12,246	3.9	454	△7.1	389	△17.0	233	△23.4
2021年3月期第2四半期	11,792	△7.6	489	△17.6	468	△15.5	305	△16.5

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 239百万円(△34.9%) 2021年3月期第2四半期 367百万円(21.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	8.61	—
2021年3月期第2四半期	11.26	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第2四半期	26,745	10,041	37.5
2021年3月期	27,239	9,922	36.4

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 10,041百万円 2021年3月期 9,922百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
2022年3月期	—	0.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日~2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	23,300	△1.6	450	△54.2	530	△52.2	370	△52.3	13.63

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 —社(社名)— 、除外 —社(社名)—
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期2Q	35,000,000株	2021年3月期	35,000,000株
② 期末自己株式数	2022年3月期2Q	7,773,675株	2021年3月期	7,845,675株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期2Q	27,171,637株	2021年3月期2Q	27,120,159株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の再拡大による断続的な緊急事態宣言の発令の影響で、企業活動や個人消費の回復に遅れがみられました。先行きについては、ワクチン接種の進展に伴い各種政策の効果や海外経済の改善などから持ち直しの動きが期待されるものの、感染再拡大による下振れリスクが懸念されるなど、不透明な状況が続くものと見込まれます。

このような環境の中で、当社および当社グループはお客様、地域社会、関係取引先、従業員およびその家族の安全と健康を確保することを最優先に、生活必需品である砂糖や、オリゴ糖をはじめとした機能性素材等の製品を、非常時においても安定して消費者の皆様にお届けすることを第一義に考え、お客様のおなかの健康に貢献する「おなかにやさしい会社」として、年度計画達成に向けて全力で取り組んでまいりました結果、当第2四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

#### ①砂糖事業

海外原糖市況は、ニューヨーク市場粗糖先物相場（当限、1ポンド当たり）において14.71セントで始まり、ワクチン接種の進展による世界経済への回復期待から商品相場へ投機資金が流入し、相場は上昇傾向で推移しました。8月中旬には砂糖主要生産国であるブラジルの産糖量見通しが大幅に減少するとの報道を受けて供給不足懸念が台頭し、20.37セントの高値を付け、その後も高値圏で推移し、19.83セントで当第2四半期連結累計期間を終了しました。

国内市中価格（日本経済新聞掲載、上白大袋1kg当たり）は、期初192円～193円で始まり、海外粗糖相場の高騰や海上運賃の上昇を受けた結果、198円～199円にて当第2四半期連結累計期間を終了しました。

精糖およびその他糖類など国内販売は、コロナ禍における外出自粛要請の継続により土産物需要が低迷した他、巣ごもり需要も一服したことから家庭用製品が低調に推移しました。一方、業務用製品は想定していた回復には至らなかったものの、新たな需要の掘り起こしに努め、売上高は前年を上回りました。

以上の結果、当期における砂糖事業全体の売上高は11,290百万円（前年同四半期比4.3%増）、原材料コスト等の上昇に伴いセグメント利益は745百万円（前年同四半期比14.6%減）となりました。

#### ②バイオ事業

オリゴ糖部門は、特定保健用食品「オリゴのおかげ」シリーズの拡販を図り、各種広告等を通じて提案、事業拡大に向け積極的に取り組んでまいりました。また、オリゴ糖が人気TV番組で取り上げられるなど、依然として健康志向への関心は高く、売上伸張に大きく寄与しました。その結果、同製品はシリーズ全般的に販売が好調に推移し、販売数量は前年を上回りました。しかしながら第1四半期連結会計期間の期首より「収益認識に関する会計基準」等を適用したことから売上高は減少し、前年同四半期を下回りました。

サイクロデキストリン部門は、販売数量は前年を上回りましたが、受託加工品の販売が低調に推移したことから、売上高は前年同四半期を下回りました。

新商品「奇跡の野菜といわれるビーツをドリンクにしました」につきましては、認知度向上の取り組みとして雑誌や新聞広告を積極的に展開し、web通販を中心に拡販に注力してまいりました。今後もドリンクタイプのみならず、ビーツ事業としてあらゆる商品展開を検討してまいります。

以上の結果、当期におけるバイオ事業全体の売上高は939百万円（前年同四半期比0.3%減）、セグメント利益は264百万円（前年同四半期比30.7%増）となりました。

#### ③その他

その他の事業につきましては、ニューE S Rビル事務所の一部賃貸等を行い、所有不動産の活用に努めました結果、売上高は66百万円（前年同四半期比1.9%減）、セグメント利益は30百万円（前年同四半期比3.1%減）となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は12,246百万円（前年同四半期比3.9%増）、営業利益は454百万円（前年同四半期比7.1%減）、経常利益は389百万円（前年同四半期比17.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は233百万円（前年同四半期比23.4%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

### ①資産

流動資産合計は前連結会計年度末に比べて341百万円減少し、9,548百万円となりました。これは主に、現金及び預金が1,219百万円減少、商品及び製品が336百万円、原材料及び貯蔵品が286百万円それぞれ増加したことによるものであります。

固定資産合計は前連結会計年度末に比べて152百万円減少し、17,197百万円となりました。これは主に、建物及び構築物が103百万円、建設仮勘定が240百万円それぞれ減少した一方で、機械装置及び運搬具が156百万円、投資有価証券が54百万円それぞれ増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて494百万円減少し、26,745百万円となりました。

### ②負債

負債合計は前連結会計年度末に比べて614百万円減少し、16,703百万円となりました。これは主に、買掛金及び支払手形が311百万円増加した一方で、短期借入金が350百万円、長期借入金が540百万円それぞれ減少ことによるものであります。

### ③純資産

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて119百万円増加し、10,041百万円となりました。これは主に、利益剰余金が98百万円増加したことによるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末と比べて1,219百万円減少し、3,677百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、210百万円(前年同四半期は196百万円の収入)となりました。

これは主に、税金等調整前四半期純利益389百万円、減価償却費326百万円等による資金の増加があった一方で、法人税等の支払額131百万円等による資金の減少があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は、482百万円(前年同四半期は347百万円の資金支出)となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出341百万円等による資金の減少があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は、948百万円(前年同四半期は790百万円の資金収入)となりました。

これは、配当金の支払135百万円、借入金の純減少額813百万円による資金の減少があったことによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2021年5月7日付「2021年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」にて発表いたしました業績予想に変更はありません。

本資料に記載されている業績見通し等将来に関する記述は、当社グループが現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,897	3,677
受取手形及び売掛金	1,557	1,699
商品及び製品	1,034	1,371
仕掛品	224	260
原材料及び貯蔵品	1,016	1,303
その他	1,159	1,235
流動資産合計	9,889	9,548
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	10,174	10,186
減価償却累計額	△7,171	△7,286
建物及び構築物(純額)	3,003	2,900
機械装置及び運搬具	11,780	12,096
減価償却累計額	△10,024	△10,183
機械装置及び運搬具(純額)	1,756	1,913
工具、器具及び備品	419	425
減価償却累計額	△357	△365
工具、器具及び備品(純額)	62	59
土地	5,234	5,234
建設仮勘定	266	26
有形固定資産合計	10,324	10,135
無形固定資産		
ソフトウェア	61	44
その他	6	6
無形固定資産合計	67	50
投資その他の資産		
投資有価証券	4,697	4,752
長期貸付金	1,387	1,412
繰延税金資産	790	771
その他	83	74
投資その他の資産合計	6,958	7,011
固定資産合計	17,350	17,197
資産合計	27,239	26,745

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	640	952
短期借入金	4,800	4,450
1年内返済予定の長期借入金	2,080	2,180
未払法人税等	130	138
未払消費税等	42	106
賞与引当金	68	67
その他	1,092	937
流動負債合計	8,854	8,832
固定負債		
長期借入金	7,776	7,236
退職給付に係る負債	450	398
繰延税金負債	2	4
その他	233	231
固定負債合計	8,462	7,871
負債合計	17,317	16,703
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,750	1,750
資本剰余金	233	221
利益剰余金	11,645	11,743
自己株式	△3,004	△2,976
株主資本合計	10,625	10,739
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△702	△699
繰延ヘッジ損益	0	△0
退職給付に係る調整累計額	△0	1
その他の包括利益累計額合計	△702	△697
純資産合計	9,922	10,041
負債純資産合計	27,239	26,745

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
売上高	11,792	12,246
売上原価	9,436	10,315
売上総利益	2,355	1,930
販売費及び一般管理費	1,865	1,475
営業利益	489	454
営業外収益		
受取利息	13	13
受取配当金	60	57
その他	3	4
営業外収益合計	76	74
営業外費用		
支払利息	44	50
持分法による投資損失	45	60
支払手数料	4	27
その他	2	1
営業外費用合計	96	140
経常利益	468	389
特別損失		
固定資産売却損	2	—
特別損失合計	2	—
税金等調整前四半期純利益	466	389
法人税、住民税及び事業税	126	138
法人税等調整額	34	17
法人税等合計	161	155
四半期純利益	305	233
親会社株主に帰属する四半期純利益	305	233

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	305	233
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	73	4
繰延ヘッジ損益	△5	△0
退職給付に係る調整額	△3	3
持分法適用会社に対する持分相当額	△2	△1
その他の包括利益合計	62	5
四半期包括利益	367	239
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	367	239

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	466	389
減価償却費	337	326
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△64	△46
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△3	△0
受取利息及び受取配当金	△73	△70
支払利息	44	50
支払手数料	—	23
為替差損益 (△は益)	0	△0
持分法による投資損益 (△は益)	45	60
売上債権の増減額 (△は増加)	173	△141
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△579	△660
仕入債務の増減額 (△は減少)	364	311
その他	△400	79
小計	310	321
利息及び配当金の受取額	73	70
利息の支払額	△44	△49
法人税等の支払額	△148	△131
法人税等の還付額	5	0
営業活動によるキャッシュ・フロー	196	210
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△366	△341
無形固定資産の取得による支出	△1	△0
投資有価証券の取得による支出	△0	△121
貸付けによる支出	△430	△450
貸付金の回収による収入	449	431
その他	1	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△347	△482
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,650	△350
長期借入れによる収入	—	477
長期借入金の返済による支出	△724	△940
自己株式の取得による支出	△0	—
配当金の支払額	△135	△135
財務活動によるキャッシュ・フロー	790	△948
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	638	△1,219
現金及び現金同等物の期首残高	2,705	4,897
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,343	3,677

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、従来は売上原価、販売費及び一般管理費に計上しておりました販売促進費等の一部を、売上高から控除しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は387百万円、売上原価は36百万円、販売費及び一般管理費は350百万円それぞれ減少しております。なお、利益剰余金の当期首残高への影響はありません。

また、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	砂糖事業	バイオ事業	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	10,819	915	57	11,792	—	11,792
セグメント間の内部売上高又は振替高	5	26	10	43	△43	—
計	10,825	941	67	11,835	△43	11,792
セグメント利益	873	202	31	1,107	△618	489

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	砂糖事業	バイオ事業	その他	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	11,276	910	58	12,246	—	12,246
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	11,276	910	58	12,246	—	12,246
セグメント間の内部売上高又は振替高	14	28	8	50	△50	—
計	11,290	939	66	12,296	△50	12,246
セグメント利益	745	264	30	1,040	△586	454

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の「砂糖事業」の売上高は325百万円、「バイオ事業」の売上高は61百万円それぞれ減少しております。なお、「砂糖事業」「バイオ事業」のセグメント費用が同額減少するため、セグメント利益に与える影響はありません。